

e) 昆虫類の重要な種

e-1) アオハダトンボ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(1)に示す。

本種は、下無津呂地区の北川集落南の沢沿い1地点、大野地区の音無周辺1地点、嘉瀬川の新小関橋上流1地点及び下流1地点、畑瀬橋付近1地点、神水川の小ヶ倉橋付近1地点、合計6地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、上関屋周辺において記録がある。このほか、文献<sup>33)</sup>においては畑瀬で確認された記録がある。

本種は、主に平地や丘陵地の水生植物が繁茂する清流に生息する<sup>31)</sup>。生涯羽化水域をほとんど離れない<sup>31)</sup>。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に嘉瀬川の上流部及び周辺支川に生息すると考えられる。

i) 直接改変

【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

・生息地の消失又は改変

本種が確認された地点のうち、下無津呂地区の北川集落南の沢沿い1地点、嘉瀬川の新小関橋上流1地点及び下流1地点、合計3地点は、対象事業の実施による改変部の範囲に位置しない。

一方、大野地区の音無周辺1地点、嘉瀬川の畑瀬橋付近1地点、神水川の小ヶ倉橋付近1地点、合計3地点は、貯水池の出現により消失する。

また、本種の主な生息環境である嘉瀬川の上流部及び周辺支川は、大部分が副ダムの堤体、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

このことから、副ダムの堤体、道路及び貯水池の出現する範囲は、本種の生息環境として適さなくなると予測される。また、本種は生涯羽化水域をほとんど離れないことから、改変区域に生息する個体は消失すると考えられ、本種の

生息状況が変化する可能性がある。

ii) 直接改変以外

【工事の実施】

・工事の実施による水質の変化

工事区域周辺及びその下流では工事の実施に伴う水質の変化が想定されるが、「4.1.4 水環境」によると影響は小さいと考えられる。

【土地又は工作物の存在及び供用】

・貯水池上流端部の堆砂

貯水池上流端部では、「4.1.7 生態系」の予測によると、サーチャージ水位と常時満水位の間ではツルヨシが侵入するか、あるいは植生が安定せず砂地が出現するものと考えられ、ツルヨシが侵入して水際部に群落を形成した場合には、本種の生息環境となる可能性がある。

このことから、貯水池上流端部付近では、本種の生息環境となるツルヨシ群落が出現する可能性がある。

iii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変及び直接改変以外の影響を受けると考えられる。

本種の生息環境である嘉瀬川の上流部及び周辺支川の大部分は、対象事業の実施によるダム等の堤体等の工事及び貯水池の出現により消失する。本種は生涯羽化水域をほとんど離れないことから、改変区域に生息する個体は消失すると考えられ、本種の生息状況が変化すると考えられる。

一方、工事の実施に伴う水質の変化の影響は小さいと考えられる。また、ダム供用開始後に、貯水池上流端部付近にツルヨシ群落が出現した場合は、本種の生息環境となる可能性がある。

しかし、影響予測に必要な情報が十分に得られておらず、予測結果に不確実性が伴うと考えられる。このため、今後の調査により情報を蓄積して再予測を行い、必要に応じて移植、生息環境の整備等の保全措置を検討していく。

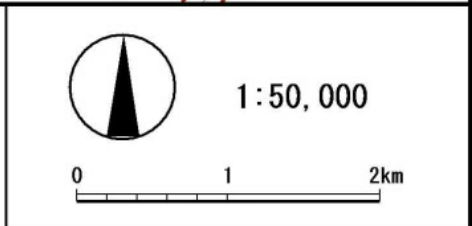
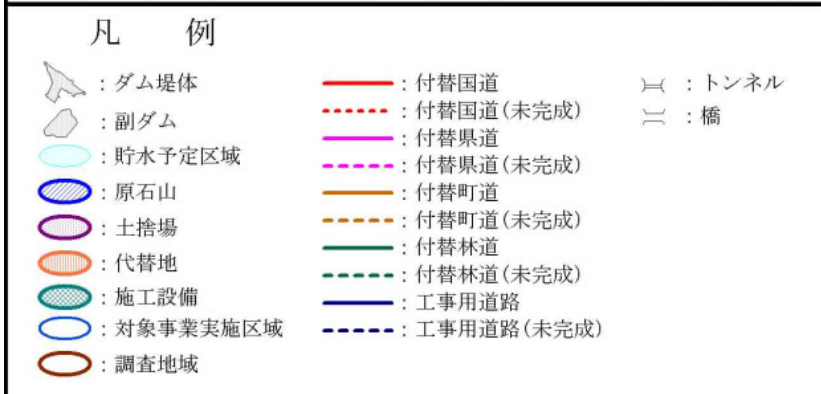
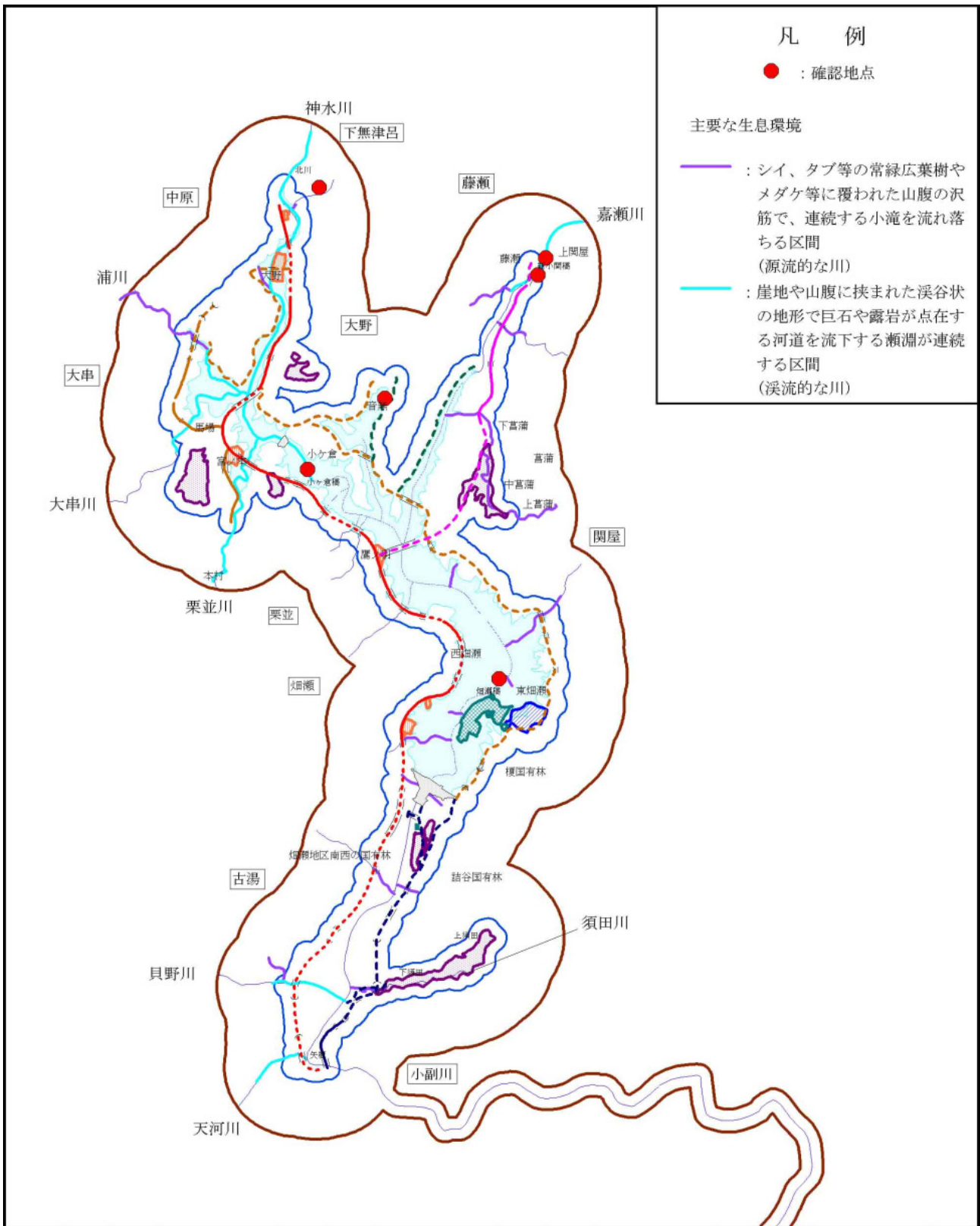


図4.1.5-13(1)  
アオハダトンボ調査結果と  
事業計画との重ね合わせ図面

#### e-2) サラサヤンマ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(2)に示す。

本種は、大野地区の音無周辺2地点、栗並川の本村集落周辺1地点、合計3地点で生息が確認された。

本種は、主に丘陵地や低山地のハンノキやヤナギ類が生育する湿地林に生息する<sup>31)</sup>。幼虫は落葉等に覆われた湿った地面や浅い滞水にすんでいる<sup>31)</sup>。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、主に放棄水田または休耕田や音無周辺の湿性地に生息すると考えられる。

なお、本種の確認地点である栗並川の本村集落周辺1地点及び本種の生息環境である休耕田雑草群落や音無周辺の湿性地の一部は、既に工事用道路の設置及び道路の付替の工事により改変されている。

#### i) 直接改変

##### 【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

##### ・生息地の消失又は改変

本種が確認された地点のうち、大野地区の音無周辺1地点は、対象事業の実施による改変部の範囲に位置しない。

一方、大野地区の音無周辺1地点は、貯水池の出現により消失する。

また、本種の主な生息環境である放棄水田または休耕田や音無周辺の湿性地は、一部が施工設備及び工事用道路の設置、建設発生土の処理、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

このことから、土捨場の跡地、道路及び貯水池の出現する範囲は、本種の生息環境として適さなくなると予測される。

しかし、調査地域周辺には消失する生息環境と同様の放棄水田または休耕田や音無周辺の湿性地が残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。

ii) 直接改変以外

【工事の実施】

・工事の実施による水質の変化

工事区域周辺及びその下流では工事の実施に伴う水質の変化が想定されるが、「4.1.4 水環境」によると影響は小さいと考えられる。

iii) まとめ

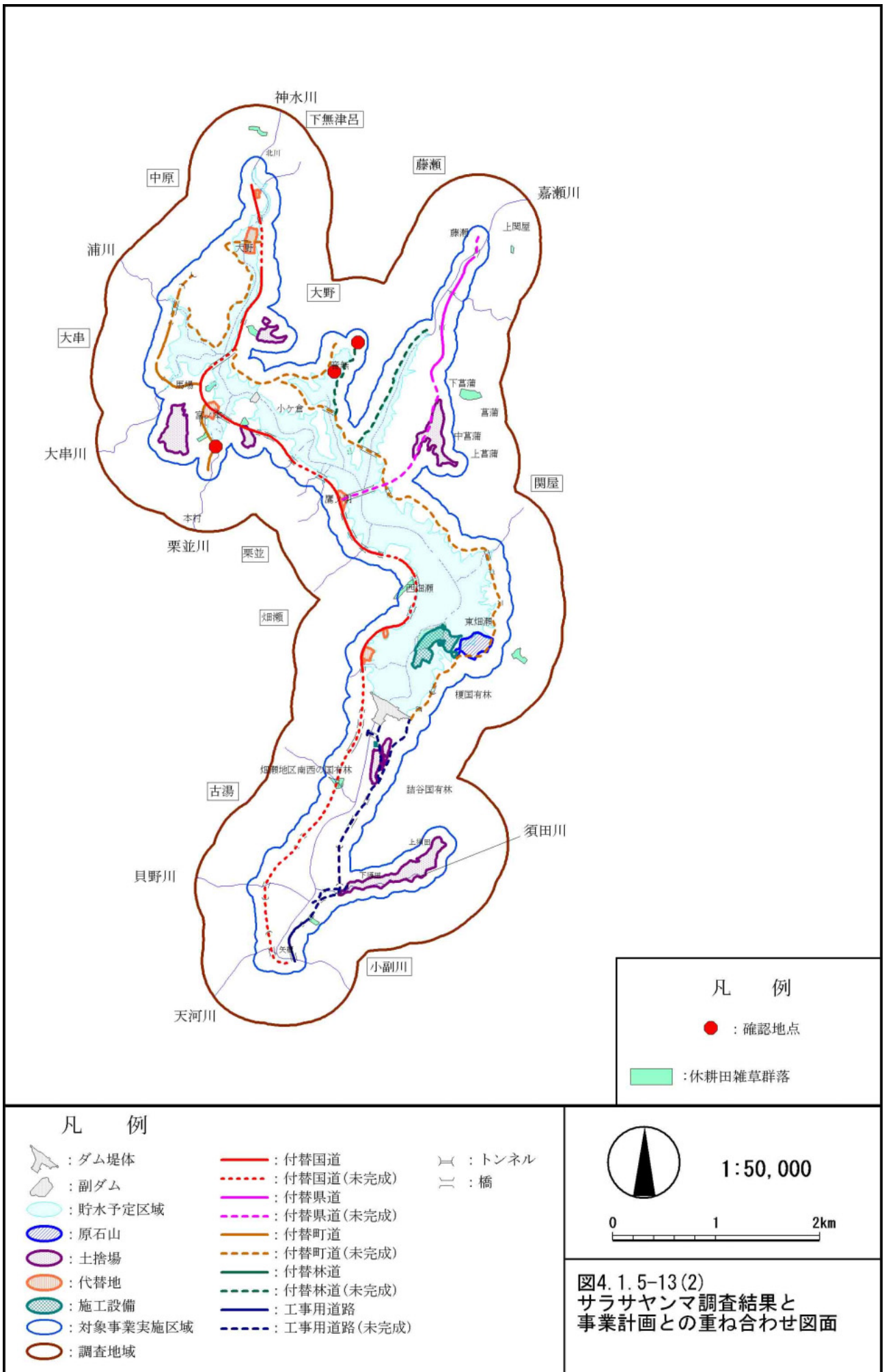
本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変及び直接改変以外の影響を受けると考えられるが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。

本種の生息環境である放棄水田または休耕田や音無周辺の湿性地の一部は、対象事業の実施による建設発生土の処理等の工事及び貯水池の出現により消失する。

しかし、調査地域周辺には本種の生息環境である放棄水田または休耕田や音無周辺の湿性地が残存することから、本種の生息は維持されることが考えられる。

また、工事の実施に伴う水質の変化の影響は小さいと考えられる。

これらのことから、本種の生息は維持されることが考えられる。



e-3) アオサナエ

本種は、神水川の小ヶ倉橋付近 1 地点で生息が確認された。

本種の予測の結果は、幼虫と併せて「f) 底生動物の重要な種」で記述する。

e-4) ハッチョウトンボ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図 4.1.5-13(3)に示す。

本種は、大野地区の音無周辺の地下水の浸出しがみられる水田跡地で、成虫が 1 個体確認された。

本種は、主に平地や丘陵地、低山地の日当たりの良いモウセンゴケやミミカキグサ、サギソウ等が生育する滲出水のある湿地や湿原に生息する<sup>31)</sup>。幼虫は背丈の低い草に覆われた小さく浅い滞水や滲出水等にすみ、水底の柔らかい泥の中に潜んで生活している<sup>31)</sup>。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、水田が放棄された後に出現した湿性地等に局地的に生息すると考えられる。

i) 直接改変

【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

・生息地の消失又は改変

本種が確認された大野地区の音無周辺 1 地点は、貯水池の出現により消失する。

このことから、本種の生息状況が変化する可能性がある。

ii) 直接改変以外

【工事の実施】

・工事の実施による水質の変化

本種の確認地点のうち、工事区域周辺及びその下流の確認地点は、直接改変の影響により、全て消失すると予測されることから、工事の実施による水質の変化の影響は検討しない。

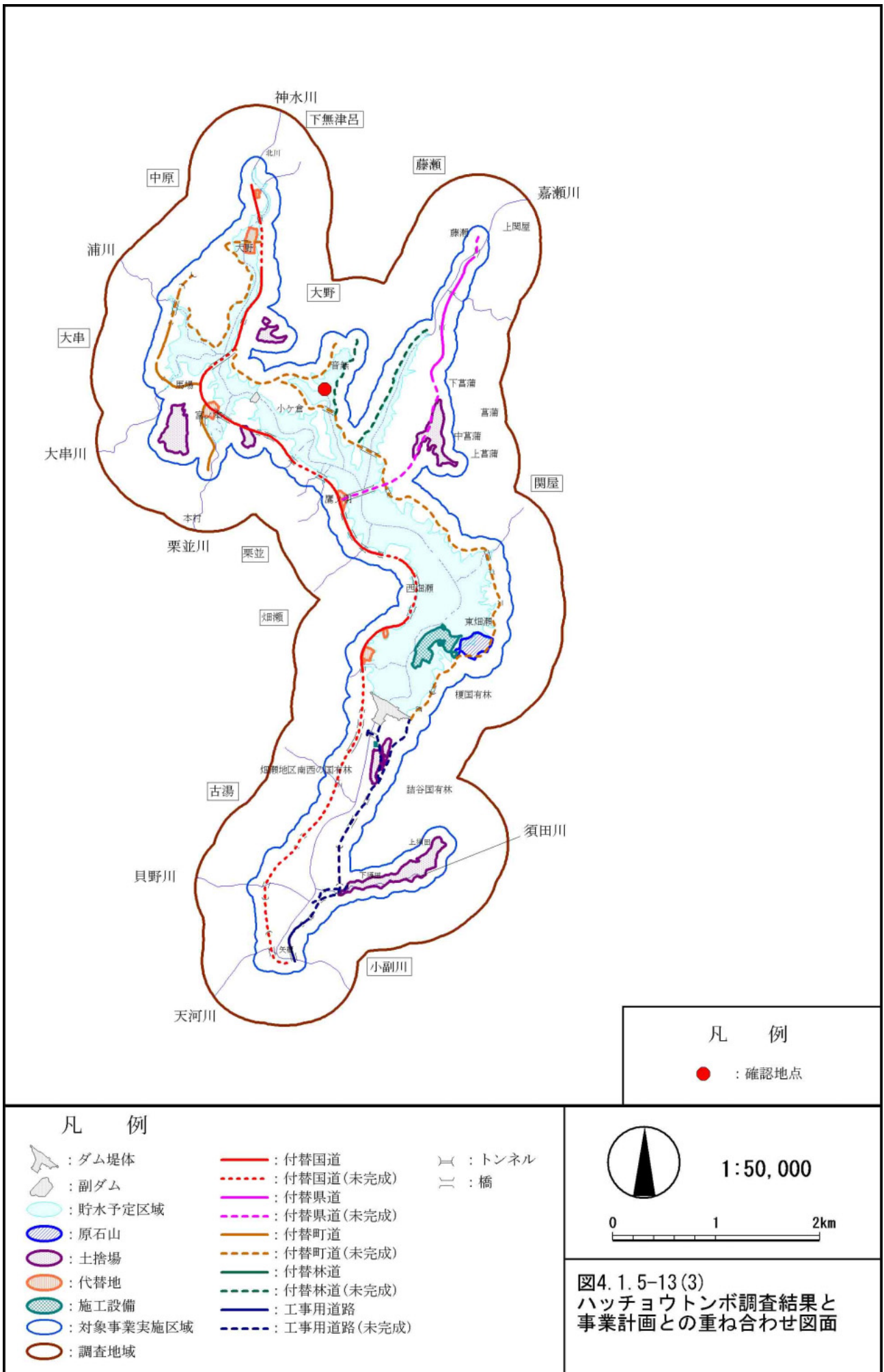
iii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変の影響を受けると考えられる。

本種が確認された地点は、対象事業の実施による貯水池の出現により消失する。

このことから、本種の生息状況が変化する可能性がある。





#### e-5) ハルゼミ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(4)に示す。

本種は、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部1地点、畑瀬地区の西畑瀬集落南の沢1地点、小副川地区の須田集落東の砂防ダム周辺1地点、合計3地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、中菖蒲集落西周辺、上菖蒲集落南西周辺、権現山西付近、西畑瀬集落南周辺及び対象事業実施区域内の踏査経路において記録がある。

本種は、4月～6月上旬にかけて、松林で普通に見られる<sup>34)</sup>。アカマツとクロマツだけに生息する<sup>35)</sup>。

生態情報及び確認状況から、本種は、主にアカマツ林に生息すると考えられる。

なお、本種の確認地点である中菖蒲集落西周辺、権現山西付近、西畑瀬集落南周辺及び対象事業実施区域内の踏査経路の一部及び本種の生息環境であるアカマツ林の一部は、既に道路の付替の工事により改変されている。

#### i) 直接改変

##### 【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

##### ・生息地の消失又は改変

本種が確認された地点のうち、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部1地点、小副川地区の須田集落東の砂防ダム周辺1地点、合計2地点と、上菖蒲集落南西周辺は、対象事業の実施による改変部の範囲に位置しない。

一方、畑瀬地区の西畑瀬集落南の沢1地点と、中菖蒲集落西周辺、権現山西付近及び対象事業実施区域内の踏査経路の一部は、副ダムの堤体、施工設備及び工事用道路の設置、建設発生土の処理及び道路の付替の工事により消失する。

また、本種の主な生息環境であるアカマツ林は、一部がダムの堤体、施工設備及び工事用道路の設置、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

このことから、ダムの堤体、道路及び貯水池の出現する範囲は、本種の生息環境として適さなくなると予測される。

しかし、調査地域周辺には消失する生息環境と同様のアカマツ林が残存することから、本種の生息は維持されると考えられる。

ii) 直接改変以外

【土地又は工作物の存在及び供用】

・土地又は工作物付近の環境の変化による生息環境の変化

本種が確認された上菖蒲集落南西周辺の一部は、直接改変以外の影響を受ける可能性のある改変部から 50m の範囲に位置し、生息環境として適さなくなる可能性がある。

また、対象事業の実施に伴う改変部周辺では、本種の主な生息環境であるアカマツ林の一部は変化する可能性があり、本種の生息環境として適さなくなる可能性がある。

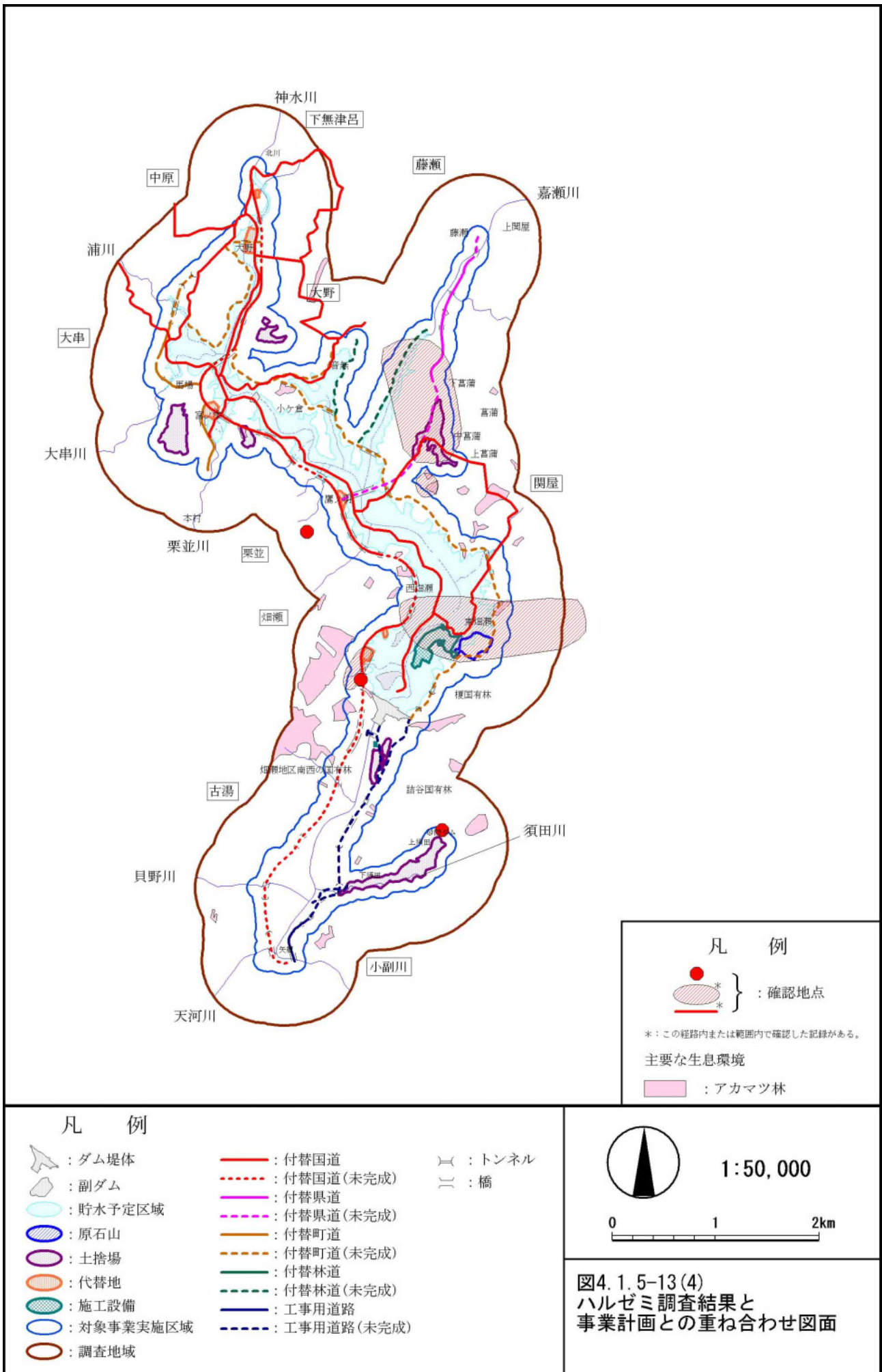
しかし、調査地域周辺には変化が想定される生息環境と同様のアカマツ林が残存することから、本種の生息は維持されると考えられる。

iii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変及び直接改変以外の影響を受けると考えられるが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。

本種の生息環境であるアカマツ林の一部は、対象事業の実施によるダムの堤体等の工事及び貯水池の出現により消失し、改変部付近は環境の変化が予測される。

しかし、調査地域周辺には本種の生息環境であるアカマツ林が残存することから、本種の生息は維持されると考えられる。



- ### 凡例
- |  |          |  |            |  |      |
|--|----------|--|------------|--|------|
|  | ダム堤体     |  | 付替国道       |  | トンネル |
|  | 副ダム      |  | 付替国道(未完成)  |  | 橋    |
|  | 貯水予定区域   |  | 付替県道       |  |      |
|  | 原石山      |  | 付替県道(未完成)  |  |      |
|  | 土捨て場     |  | 付替町道       |  |      |
|  | 代替地      |  | 付替町道(未完成)  |  |      |
|  | 施工設備     |  | 付替林道       |  |      |
|  | 対象事業実施区域 |  | 付替林道(未完成)  |  |      |
|  | 調査地域     |  | 工事用道路      |  |      |
|  |          |  | 工事用道路(未完成) |  |      |

- ### 凡例
- } : 確認地点
- \* : この経路内または範囲内で確認した記録がある。
- 主要な生息環境
- : アカマツ林

1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-13(4)  
ハルゼミ調査結果と  
事業計画との重ね合わせ図面

e-6) ベニツチカメムシ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(5)に示す。

本種は、嘉瀬川の畑瀬橋付近1地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、対象事業実施区域内の踏査経路において記録がある。

照葉樹林内にすむ<sup>37)</sup>という生態情報及び確認状況から、本種は、主に常緑広葉樹林に生息すると考えられる。

なお、本種の確認地点である対象事業実施区域内の踏査経路の一部及び本種の生息環境である常緑広葉樹林の一部は、既に道路の付替及び代替地の造成の工事により改変されている。

i) 直接改変

【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

・生息地の消失又は改変

本種が確認された嘉瀬川の畑瀬橋付近1地点と、対象事業実施区域内の踏査経路の一部は、副ダムの堤体の工事及び貯水池の出現により消失する。

また、本種の主な生息環境である常緑広葉樹林は、一部が施工設備及び工事用道路の設置、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

このことから、道路及び貯水池の出現する範囲は、本種の生息環境として適さなくなると予測される。

しかし、調査地域周辺には消失する生息環境と同様の常緑広葉樹林が残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。

ii) 直接改変以外

【土地又は工作物の存在及び供用】

・土地又は工作物付近の環境の変化による生息環境の変化

対象事業の実施に伴う改変部周辺では、本種の主な生息環境である常緑広葉樹林の一部は変化する可能性があり、本種の生息環境として適さなくなる可能

性がある。

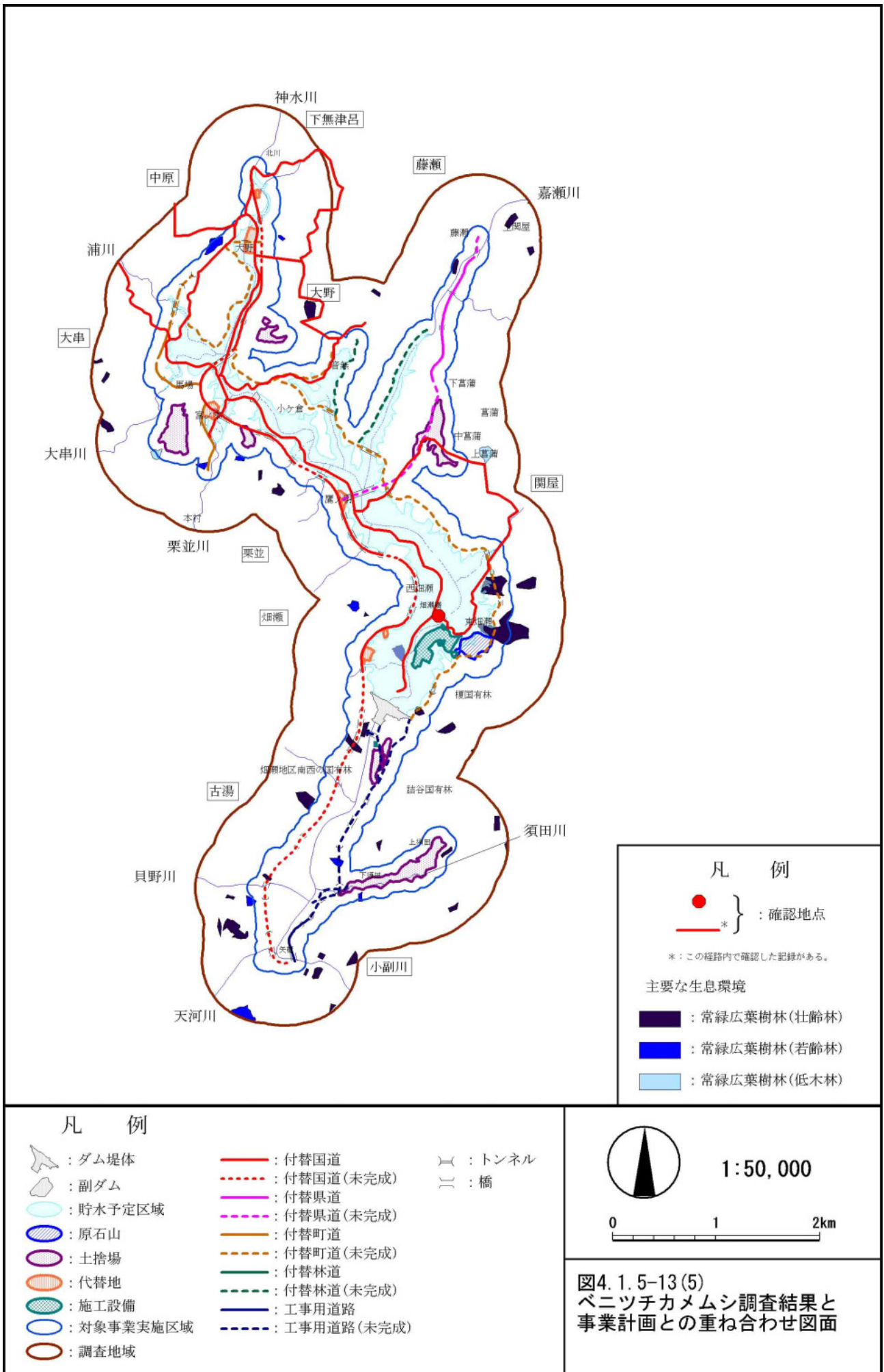
しかし、調査地域周辺には変化が想定される生息環境と同様の常緑広葉樹林が残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。

### iii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変及び直接改変以外の影響を受けると认为られるが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと认为られる。

本種の生息環境である常緑広葉樹林の一部は、対象事業の実施による道路の付替等の工事及び貯水池の出現により消失し、改変部付近は環境の変化が予測される。

しかし、調査地域周辺には本種の生息環境である常緑広葉樹林が残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。



e-7) アカスジキンカメムシ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(6)に示す。

本種は、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部1地点で生息が確認された。

本種は、山地の樹林に生活し、コナラ、フジ、ミズキ、キブシ、ヤシャブシ、エゴノキ、ホオノキ、ヌルデ、ハゼノキ、キハダ等の落葉広葉樹、ヒサカキ、ツバキ、アオキ等の常緑広葉樹、スギ、ヒノキ、クロマツ等の針葉樹等から発見される<sup>37)</sup>。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に樹林に生息すると考えられる。

なお、本種の生息環境である樹林の一部は、既に工事用道路の設置、道路の付替及び代替地の造成の工事により改変されている。

i) 直接改変

【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

・生息地の消失又は改変

本種が確認された栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部1地点は、対象事業の実施による改変部の範囲に位置しない。

一方、本種の主な生息環境である樹林は、一部がダム of 堤体、副ダムの堤体、原石の採取、施工設備及び工事用道路の設置、建設発生土の処理、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

このことから、ダムの堤体、副ダムの堤体、原石山の跡地、土捨場の跡地、道路及び貯水池の出現する範囲は、本種の生息環境として適さなくなると予測される。

しかし、調査地域周辺には消失する生息環境と同様の樹林が広い範囲で残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。



ii) 直接改変以外

【土地又は工作物の存在及び供用】

・土地又は工作物付近の環境の変化による生息環境の変化

本種が確認された栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部1地点は、直接改変以外の影響を受ける可能性のある改変部から50mの範囲に位置しない。

一方、対象事業の実施に伴う改変部周辺では、本種の主な生息環境である樹林の一部は変化する可能性があり、本種の生息環境として適さなくなる可能性がある。

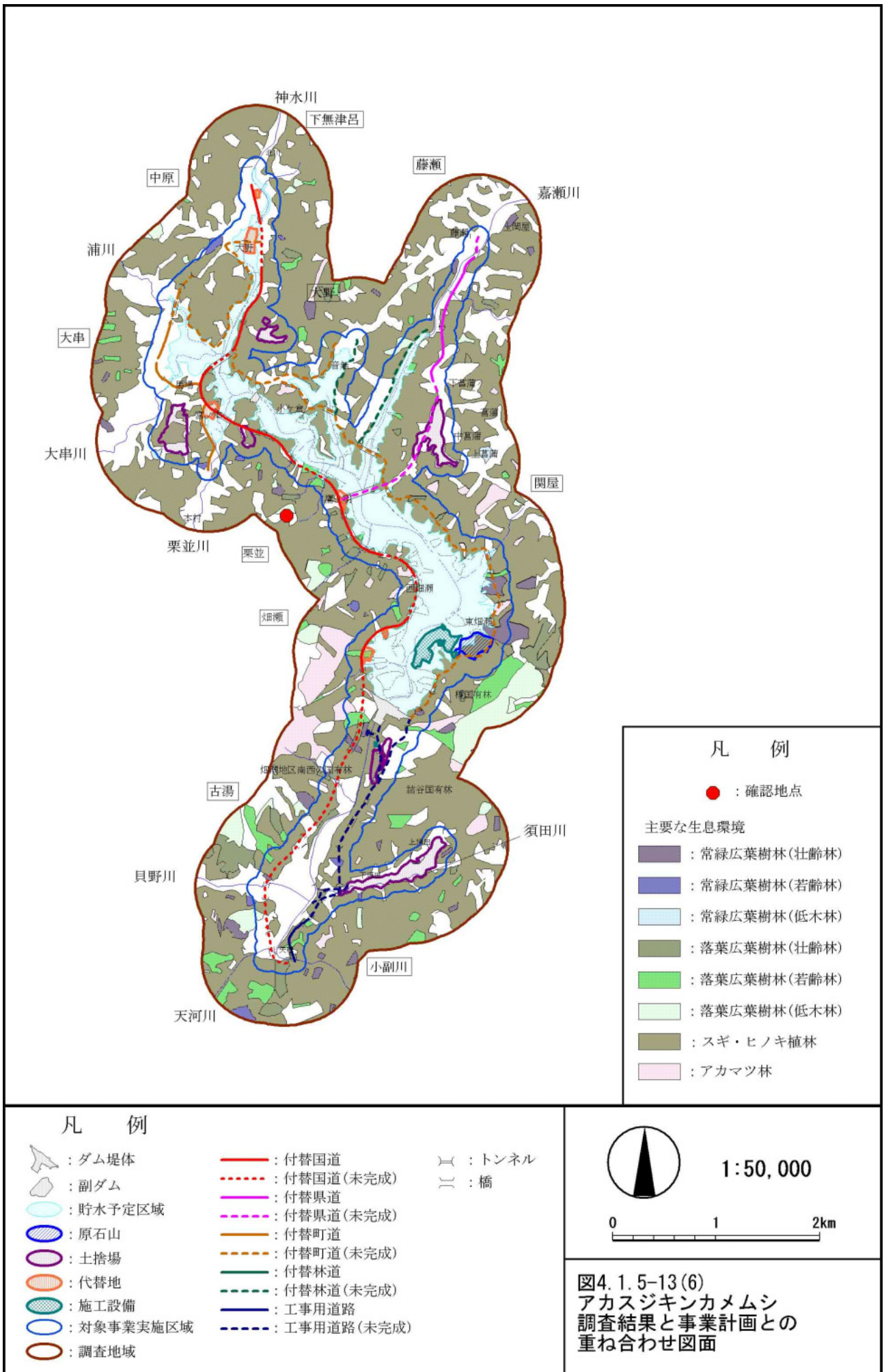
しかし、調査地域周辺には変化が想定される生息環境と同様の樹林が広い範囲で残存することから、本種の生息は維持されると考えられる。

iii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変及び直接改変以外の影響を受けると考えられるが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。

本種の生息環境である樹林の一部は、対象事業の実施によるダムのでき等工事及び貯水池の出現により消失し、改変部付近は環境の変化が予測される。

しかし、調査地域周辺には本種の生息環境である樹林が広い範囲で残存することから、本種の生息は維持されると考えられる。



e-8) ミヤマセセリ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(7)に示す。

本種は、大野地区の大野集落東の山間部1地点で生息が確認された。また、文献<sup>41)</sup>において古湯城山公園で確認された記録がある。

本種は、疎林をまじえた原野、山地の路傍を飛び、枯草上や地面に好んで止まる<sup>39)</sup>。幼虫の食草はコナラ、クヌギ、カシワ等のブナ科<sup>39)</sup>である。

生態情報及び確認状況から、本種は、主にコナラ、クヌギ、カシワ等の落葉広葉樹林に生息すると考えられる。

なお、本種の生息環境である落葉広葉樹林の一部は、既に工事用道路の設置及び道路の付替の工事により改変されている。

i) 直接改変

【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

・生息地の消失又は改変

本種が確認された大野地区の大野集落東の山間部1地点は、対象事業の実施による改変部の範囲に位置しない。

一方、本種の主な生息環境である落葉広葉樹林は、一部が施工設備及び工事用道路の設置、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

このことから、道路及び貯水池の出現する範囲は、本種の生息環境として適さなくなると予測される。

しかし、調査地域周辺には消失する生息環境と同様の落葉広葉樹林が残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。

ii) 直接改変以外

【土地又は工作物の存在及び供用】

・土地又は工作物付近の環境の変化による生息環境の変化

本種が確認された大野地区の大野集落東の山間部1地点は、直接改変以外の

影響を受ける可能性のある改変部から 50m の範囲に位置しない。

一方、対象事業の実施に伴う改変部周辺では、本種の主な生息環境である落葉広葉樹林の一部は変化する可能性があり、本種の生息環境として適さなくなる可能性がある。

しかし、調査地域周辺には変化が想定される生息環境と同様の落葉広葉樹林が残存することから、本種の生息は維持されると考えられる。

### iii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変及び直接改変以外の影響を受けると考えられるが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。

本種の生息環境である落葉広葉樹林の一部は、対象事業の実施による道路の付替等の工事及び貯水池の出現により消失し、改変部付近は環境の変化が予測される。

しかし、調査地域周辺には本種の生息環境である落葉広葉樹林が残存することから、本種の生息は維持されると考えられる。

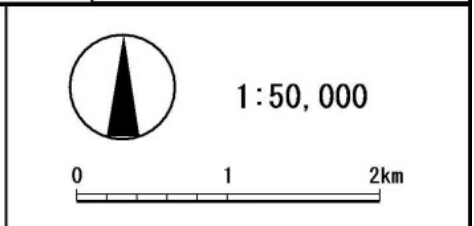
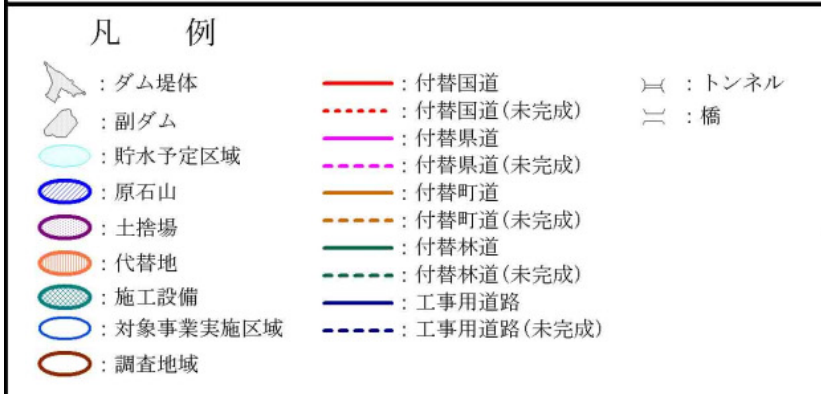
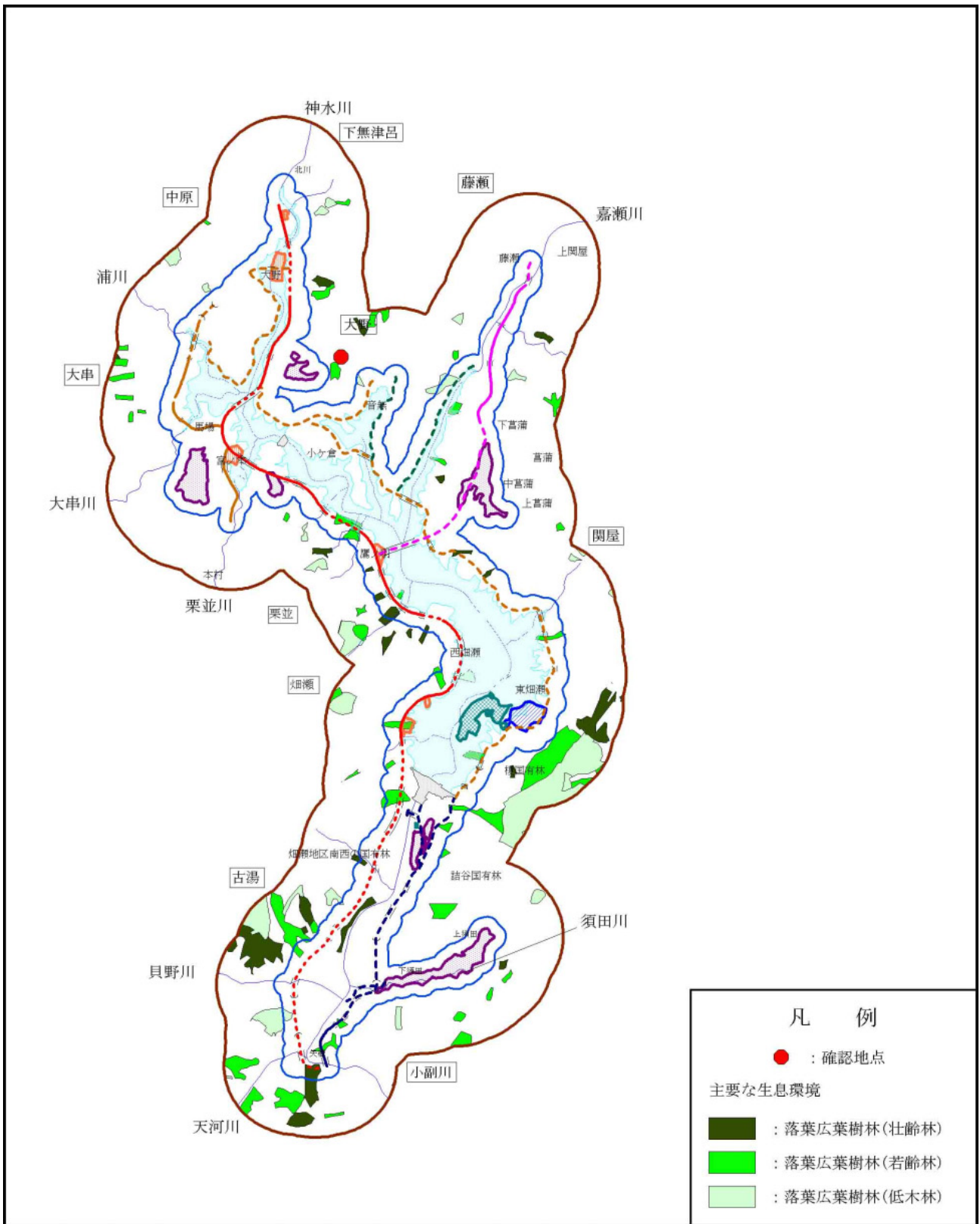


図4.1.5-13(7)  
ミヤマセセリ調査結果と  
事業計画との重ね合わせ図面

#### e-9) ホソバセセリ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(8)に示す。

本種は、藤瀬地区の藤瀬集落南西の山間部2地点、関屋地区の東畑瀬集落南東の林道沿い2地点、栗並地区の鷹ノ羽集落北東の沢周辺1地点、宮ノ本集落南東の山間部1地点、鷹ノ羽集落南の沢周辺1地点、合計7地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、畑瀬周辺の経路において確認された記録がある。

本種は、ススキを生ずる荒地、丘陵地から山地の路傍に多い<sup>39)</sup>。

生態情報及び確認状況から、本種は、主にススキ等が生育する草地に生息すると考えられる。

なお、本種の生息環境であるススキ等が生育する草地の一部は、既に工事用道路の設置、道路の付替及び代替地の造成の工事により改変されている。

#### i) 直接改変

##### 【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

##### ・生息地の消失又は改変

本種が確認された地点のうち、藤瀬地区の藤瀬集落南西の山間部2地点、栗並地区の鷹ノ羽集落北東の沢周辺1地点、宮ノ本集落南東の山間部1地点、鷹ノ羽集落南の沢周辺1地点、合計5地点は、対象事業の実施による改変部の範囲に位置しない。

一方、関屋地区の東畑瀬集落南東の林道沿い2地点と、畑瀬周辺の経路の一部は、原石の採取、建設発生土の処理の工事及び貯水池の出現により消失する。

また、本種の主な生息環境であるススキ等が生育する草地は、一部がダムの堤体、副ダムの堤体、施工設備及び工事用道路の設置、建設発生土の処理、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

このことから、ダムの堤体、副ダムの堤体、土捨場の跡地、道路及び貯水池の出現する範囲は、本種の生息環境として適さなくなると予測される。

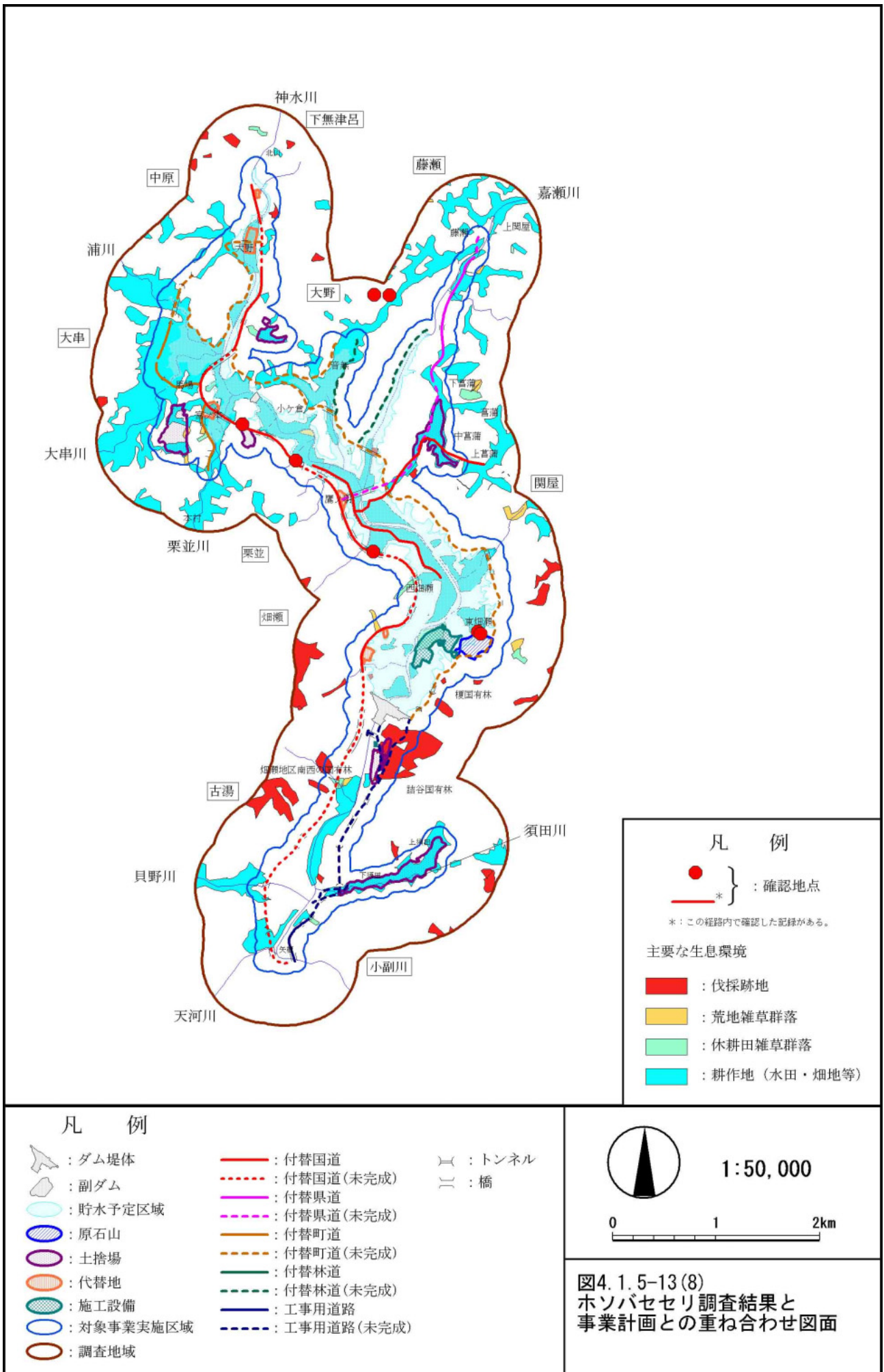
しかし、調査地域周辺には消失する生息環境と同様のススキ等が生育する草地が残存することから、本種の生息は維持されと考えられる。

ii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変の影響を受けると考えられるが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。

本種の生息環境であるススキ等が生育する草地の一部は、対象事業の実施による道路の付替等の工事及び貯水池の出現により消失する。

しかし、調査地域周辺には本種の生息環境であるススキ等が生育する草地が残存することから、本種の生息は維持されと考えられる。





#### e-10) ヒメキマダラセセリ

調査の結果得られた本種の確認地点と事業計画を重ね合わせた結果を図4.1.5-13(9)に示す。

本種は、中原地区の中原集落から浦川に続く林道沿い5地点、藤瀬地区の藤瀬集落西の谷戸2地点及び南西の山間部2地点、大野地区の音無周辺2地点、関屋地区の上菖蒲集落周辺2地点、東畑瀬集落北の沢上流部1地点及び南東の林道沿い8地点、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部2地点、古湯地区の淀姫神社北の谷沿い3地点、小副川地区の須田集落周辺1地点、嘉瀬川の新小関橋下流1地点、川上川第二ダム下流1地点、神水川の北川橋上流1地点、浦川の松野集落北側周辺1地点、合計32地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、中原地区から栗並地区までの経路において確認された記録がある。

本種の成虫は陽当りのよい樹林周辺、溪流、池畔の草地に好んで生息する<sup>40)</sup>。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に沢沿いや林縁部の草地に生息し、当該地域に広く分布していると考えられる。

なお、本種の確認地点である中原地区から栗並地区までの経路の一部は、既に道路の付替の工事により改変されている。

#### i) 直接改変

##### 【工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用】

##### ・生息地の消失又は改変

本種が確認された地点のうち、中原地区の中原集落から浦川に続く林道沿い5地点、藤瀬地区の藤瀬集落西の谷戸2地点及び南西の山間部2地点、関屋地区の上菖蒲集落周辺2地点、東畑瀬集落北の沢上流部1地点及び南東の林道沿い6地点、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部2地点、古湯地区の淀姫神社北の谷沿い3地点、小副川地区の須田集落周辺1地点、嘉瀬川の新小関橋下流1地点、神水川の北川橋上流1地点、浦川の松野集落北側周辺1地点、合計27地点は、対象事業の実施による改変部の範囲に位置しない。

一方、大野地区の音無周辺2地点、関屋地区の東畑瀬集落南東の林道沿い2

地点、嘉瀬川の川上川第二ダム下流 1 地点、合計 5 地点と、中原地区から栗並地区までの経路の一部は、ダムの堤体、原石の採取、道路の付替の工事及び貯水池の出現により消失する。

また、本種の主な生息環境である沢沿いや林縁部の草地は、一部が対象事業の実施により消失する。

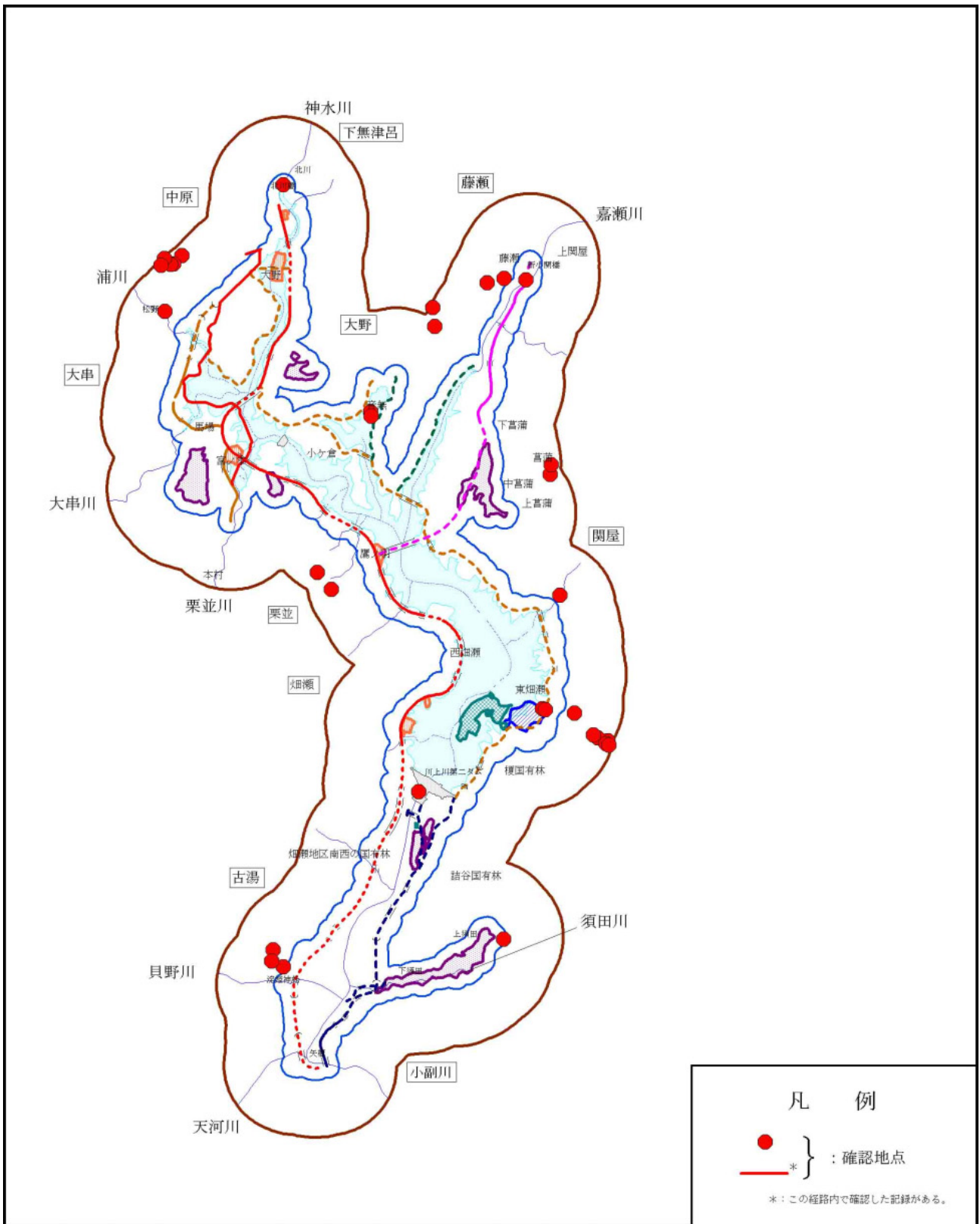
しかし、本種の生息環境である沢沿いや林縁部の草地が残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。

## ii) まとめ

本種は、対象事業の実施により、直接改変による生息地の消失又は改変の影響を受けると认为られるが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと认为られる。

本種の生息環境である沢沿いや林縁部の草地の一部は、対象事業の実施により消失する。

しかし、本種の生息環境である沢沿いや林縁部の草地が残存することから、本種の生息は維持され则认为られる。



凡 例

● } : 確認地点  
 \* }

\*: この経路内で確認した記録がある。

凡 例

<ul style="list-style-type: none"> <li> : ダム堤体</li> <li> : 副ダム</li> <li> : 貯水予定区域</li> <li> : 原石山</li> <li> : 土捨場</li> <li> : 代替地</li> <li> : 施工設備</li> <li> : 対象事業実施区域</li> <li> : 調査地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li> : 付替国道</li> <li> : 付替国道(未完成)</li> <li> : 付替県道</li> <li> : 付替県道(未完成)</li> <li> : 付替町道</li> <li> : 付替町道(未完成)</li> <li> : 付替林道</li> <li> : 付替林道(未完成)</li> <li> : 工事用道路</li> <li> : 工事用道路(未完成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li> : トンネル</li> <li> : 橋</li> </ul>
---	---	---

1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-13(9)  
 ヒメキマダラセセリ調査結果と  
 事業計画との重ね合わせ図面